

記念講演



◇ 演 題
「夢を叶える為に」

◇ 講 師
元サッカー日本代表
巻 誠一郎 氏

オープニングビデオ視聴の後、夢を持つことの大切さと夢を叶える為に必要な四つのポイントについて講演していただきました。また、講演の終わりには、質疑応答のコーナーを設けていただき丁寧に答えていただきました。その内容について、紹介します。

【夢を持つ事の大切さ】

夢や目標を持ちましょうとよく言うが……94歳で起業し、世界中の人々の健康を後押ししている人がある。いくつになっても夢を持っていい、夢を叶える為に努力をすべきだと思う。

3歳の時に初めて夢を持った。それは、ケーキ屋さんだった。小1の時は消防士。父の影響でアイスホッケーの選手、野球選手と変わっていった。仕方なく地元で盛んだったサッカーを始めた。試合も多く真剣勝負が出来て楽しかった。上手く出来ないことを上手くする楽しさ、喜びを感じ夢中になっていった。そしてサッカー選手になりたいという夢を持った。Jリーグが出来てプロサッカー選手になりたい、ワールドカップに出たいと思うようになった。その夢を叶える為には、目標を達成するための思考力、考え方が大切であると気付いた。

夢は、持つのと持たないのとではそれに向かって歩む努力の仕方や成長の仕方、学びが違ってくる。

【夢を叶える為に必要なポイント】

①届きそうで届かない目標設定

夢を見つけたらどうやって達成すればいいのか。プロが出来てカズさんかっこいいなあと思った。でもどうやってプロになるのか分からなかった。今なら分かる。プロのスカウトの人にスカウトされるとなれる。全国大会などで優秀な成績を収めること、チームで強くならないとたどり着けない。最初にやったのは同じところに蹴れるために、ボールをペットボトルに当てる練習をした。いろいろな蹴り方、距離を変える等自分で問題提起、課題を見つけた。できるようになると自信となる。大津高校、大学へ、そして、スカウトされ日本代表、ワールドカップにたどり着いた。小さな届きそうで届かない目標を設定し努力を重ねた。

②短所はチャンスである（自分の強みにする）

自分の長所、自分のいいところを知ることは目標達成には大事なことである。自分はヘディング。それを磨いていって「利き足は頭」が代名詞になった。海外の選手は、自己主張が得意。長所をよく知っていてアピール力がすごい。日本人はなかなか苦手で「長所に比べると短所の方が多い」と考えている人が多い。それは、苦手なことに対して恥ずかしい、隠したいという気持ちがあるからと思う。短所を努力して普通にまで到達したとき、長所は普通の先にある、短所は伸びしろだと考えるようになった。自分の夢を達成するために短所はありがたいチャンスの種。短所は、チャンスである。さらに、体が細く筋力も強い方ではなかったので、体作り、食事の改善等勉強した。ワールドカップの時は、屈強なフィジカルで選ばれた。短所を自分の強みにする事が大切だ。

③人がやりたくないことを率先してやるとチャンスが増える

大津高校1年時は、グラウンド掃除、洗濯等が中心で一生懸命取り組んだ。時々3年との試合がありチャンスがやってくる。ミス連発でも日頃から掃除、洗濯等一生懸命やっているのを見て、先輩たちから「巻、人のためにいろんな事が出来るよね。」と声をかけられた。人が困っていることに気付いて助けられるようになると自分が困ったときは助けてもらえるようになると思った。これをサッカーの分野に生かしたらすごいのではと思った。フォワードはパスが上がるとストライカーは俺だ、攻撃しかしない俺様状態だった。しかし、攻撃だけでなく守備も一生懸命やってみようと思い前線から全力で動いてチャレンジしてみた。すると、点数が取れるようになった。一生懸命やっていると周りがあいつは疲れているから丁寧にパスを出してやろうという発想になる。人がやりたくないことをやるとチャンスが増える。前線からハードワーク出来るフォワード！としてワールドカップに選ばれる理由につながった。

④大事にしたい三つの心

一つ目は、感謝の心。当たり前なのに感謝する。当たり前だと思っているとありがたい言葉は出ない。感謝の心は生まれないのである。当たり前の中には誰かの努力や誰かの手がある。より多くそれに気付く心を持つこと。

二つ目は、素直な心。受け止める能力である。一流の選手は一端受け止めて受け入れたり受け流したり出来る素直な心を持っている。受け止める能力がなければ自分のチャンスを逃すことになる。

三つ目は、あきらめない心。小さい頃から今はまだできないけれど「まだ」を自分の夢を叶える希望の言葉にした。次第に周りに支えてくれる人が増えていった。いつの間にか夢に繋がっていく。自分の言葉にすると責任が生まれ目標達成にあきらめないで取り組んでいける。

超一流の選手は、特別なことをやっていない。当たり前のことを当たり前に行っている。それは、成功と挫折の大きな差になる。継続しながらチャレンジすることが大切。現在もチャレンジを続けている。

【質疑応答コーナー】

Q：嫌いになった事ありますか。

A：ない。やらされている練習ではなく問題提起解決の練習をしていたので、苦しいことつらいことはあったが嫌いになったことはない。自分で課題を見つける力を養うと子どもたちは様々な解決方法を考えることが出来ると思う。

Q：けがをしたときのモチベーションの持ち方や周りの人のかかわりについて教えてください。

A：あまりけがをしなかった。プロの人は、ポジティブな変換が出来る。どれだけ再現性が持てるかが大切で、けがをしている時は、自分の出来ることを反復して出来ることを増やしていく努力をする。子どもは、大人が思うよりタフなので支える、見守る事が大事。あまり余計なことをしない。

Q：今の夢を教えてください。

A：引退した理由は、サッカーをやめてやりたいことがあった。やりたいことの方が勝った。わくわくしたことにチャレンジしていきたい。死ぬまでわくわくしたいと言うのが今の夢。

Q：家族からどんな支えがありましたか。

A：小さな頃から両親から自由を与えられた。自分がこうしたいと言うとそうしてもらえた。自由には責任がある。自分で決断してきたことだからあきらめたくない。もう少し頑張ってみようなどのあきらめない心が生まれる。

Q：課題を見つけるために、どこまでどのようにアドバイス、接し方を教えてください。

A：課題を見つけるトレーニングを取り入れる。知識が無いと見つけられない。知識を増やす。チャレンジする環境を与えトライさせてみる。成功したら褒め、失敗したときにこそ寄り添い時間を共有する。

Q：子ども会に加入する数の減少を解決したいのでヒントをもらえますか。

A：トップダウンは簡単。子どもの立場で寄り添って考えればよいのでは。何があったら子ども会に入りたくなるのか考えてやっていく。小さな輪をたくさん作る。輪が出来ると派生していく。現場からいい物をつくることは時間がかかる。とりあえずやってみる！ことから。

Q：お願いします。九州のプロサッカーの監督をやってください。

A：サッカーには携わっていきたい。求められるような人材になったら……

最後に、今、情報がたくさん手に入る環境である。夢を達成するには「情報×チャレンジ」をしていって欲しい。アクションを起こせば夢に近づける。そんな子どもたちを育てていって欲しい。

全 体 会

全体会関係者

- | | | | |
|-----------|--------------|--------------|---------|
| ◆ファシリテーター | (山本多美男) | ◆助言者 | (須田 貴子) |
| ◆発表者 | 第1部会 (桂 志郎) | 第2部会 (井立 伸一) | |
| | 第3部会 (橋本 誠剛) | 第4部会 (原 英夫) | |
| ◆記録者 | (横手 久美) | | |

■各部会からの報告

上記の発表者より部会報告がなされた。
(詳細は、各部会報告を参照)

■質疑応答

※質疑応答は、時間の都合上できなかった。



■助言 全国子ども会連合会 須田貴子副会長より

大会テーマ「今こそ広げよう 子ども会会員の輪」についての全国の事例を紹介していただきました。

- ・新潟県では、PDF や Word で子ども会会員募集チラシを自由に使用できるようにしている。
- ・栃木県では、「子ども会活動のしおり」で入門編や指導の仕方などを掲載している。
- ・熊本市では、単子の活動を掲載している単子連の活動を冊子にしている。

・新潟県の子ども会の加入システムについて紹介していただきました。

- ・子ども5人に対して大人が1人加入する。
- ・小学生未満は保護者が必ず加入する。
- ・柏崎市地域では、子ども会が子どもの見守り、相談なども行っている。
- ・コミュニティーセンターとの連携を図る。
- ・子どもの人数が少なくなった町内を合同し子ども会を維持している。
- ・保険無加入の団体に、子ども会保険の紹介をして子ども会会員を増やしている。



子ども会は地域のことを一番よく知っている素晴らしい団体である。地域全体で子どもを育むために何をすべきか、～できない、～してくれないでなく出来ること探しをし、前向きに取り組んでほしい。

大会参加者

	県（市）	部会別研究協議						情報 交換会
		第1部会	第2部会	第3部会	第4部会	フリー	小計	
1	福岡県	2	5	2	5		14	14
2	佐賀県	3	6	4	3		16	12
3	長崎県	3	4	3	3		13	12
4	大分県	3	4	2	2		11	11
5	宮崎県	6	5	3	3		17	8
6	鹿児島県	8	13	18	4		43	3
7	沖縄県	0	1	1	2	2	6	5
8	北九州市	0	0	2	1		3	3
9	福岡市	2	1	2	1		6	5
10	熊本市	3	3	0	0		6	5
11	熊本県	22	28	24	25	28	127	63
	全子連					4	4	4
	来賓					4	4	1
	合計	52	70	61	49	38	270	146

◆◆ 大会アンケート 集約結果 ◆◆

研究協議会参加数

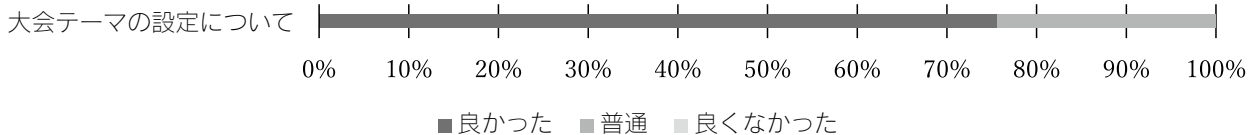
270名

アンケート回答数

123名

1 大会テーマについて 良かった (93) 普通 (30) 良くなかった (0)

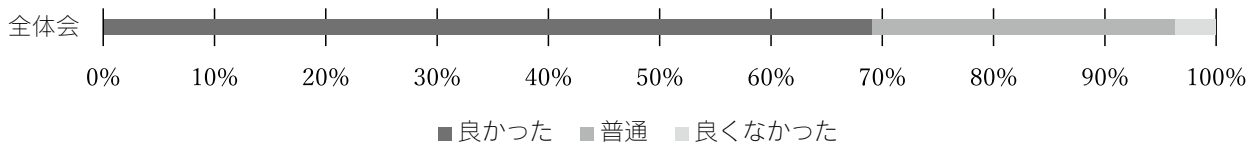
大会テーマの設定について



- テーマへの取組の方向性はとても良かった。今できる事を一歩でも進めたい。
- 子ども会の課題は共通していることがわかった。それは、近年同じことでそこから一歩前に踏み出して、協議と共にこのような中でも会員が増えている子ども会の事例発表等をしてもらえると、そこから1つでも持ち帰り自分のところの子ども会運営に活かせると思います。
- 大会テーマ「今こそ広げよう 子ども会会員の輪」私達役員は、大会テーマに沿って努力しているが地域によっては出来ない。もう少し具体的に教えてほしい。

2 全体会について 良かった (76) 普通 (30) 良くなかった (4)

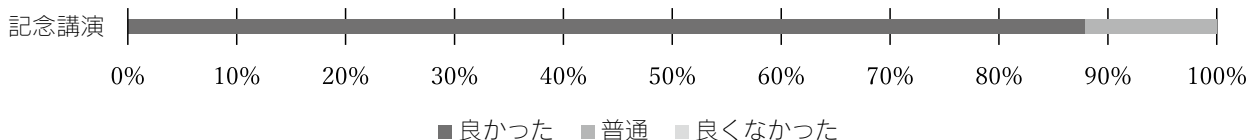
全体会について



- 全体会での部会報告は、うまくまとめられている方とそうでない方とで分かれているという印象です。自分の部会以外が何を話したのかを共有する場なので、端的にお話ししていただきたいかったです。
- 全体会について、各部会のまとめとしては不十分だと感じました。どんな意見が出たのか、解決策としてどんな案があがったのか、知りたかったです。

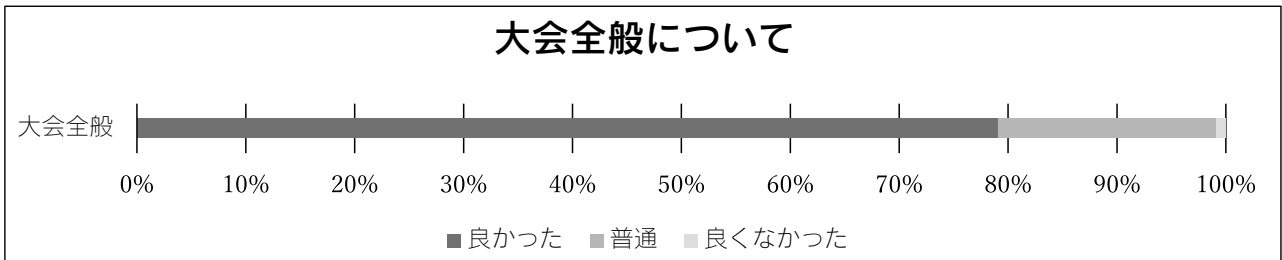
3 記念講演について 良かった (95) 普通 (13) 良くなかった (0)

記念講演について



- 講演の内容もスポーツをしている子どもを持つ親としてとても役に立った。
- 巻さんのお話は分かりやすく、自分がやってきた事実をもとにしたお話だったので楽しく聞くことができた。
- 巻さんのお話の中で、子どもは自由にさせてほしいとの事は心に残った。なかなか親としてはむずかしい事ですが……

4 大会全般について 良かった (87) 普通 (22) 良くなかった (1)



- 全体的に大変気配りの見られた大会で良かったです。ありがとうございました。
- 素晴らしい大会だったと思います。「九州は一つ」がまた広がったと感じます。課題山積の子ども会ですが、少しでも前進できるよう頑張りたいと思います。
- 初めて大会に参加しましたが、皆さん子ども会に長年尽力されている方達ばかりで驚きました。まだまだ子育て真っ最中ですが、こんなにもたくさんの方達が子ども達、社会の為に考え動いてくださっていることに感謝し、私も何か出来ることをと思いを新たにしました。ありがとうございました。
- 司会をしてくれたユース・リーダーの女性2人ととてもよかったです。子ども会の大会なので、ジュニア・リーダー、ユース・リーダーの活躍が良いですね。
- 3つのアトラクションをみましたが、どれもすばらしく涙が込み上げてきました。何事にも一生懸命取り組む姿は尊いです！！
- 2部会で提案された企業協賛で子ども会への入会促進は、課題はあるものの取組が必要があると思った。
- 熊本のスタッフのみなさん、準備・当日大会とお世話様でした。とてもいい大会でした。
- 来賓に代理の方が多くて会長が力を入れているのに代理の方がこの大会を肌で感じ取っていただいているのか？
- 協賛団体による優待割引等については、個人使用ではなく子ども会活動時のみ適用されるよう制度設計が必要。現在のままでは、JAF 会員となんら変わらない。
- 1日目の40分間の空白時間を早めて話し合いの時間として使いたかった。

※部会協議会についてのアンケート結果（数値）グラフは、P16に掲載しております。また、各部会へのご意見・ご感想は、各部会の報告ページに掲載しております。アンケートにご協力いただきありがとうございました。

大会役員・実行委員会

【大会会長】

熊本県子連会長	丸 山 康 昭
---------	---------

【大会役員】

県子連理事、監事、専門委員、課題解決・魅力アップ検討委員

【実行委員長】

熊本県子連副会長	鏡 純 子
----------	-------

【実行委員】

No.	氏 名	役 職
1	松 尾 博 之	県子連副会長、天草市子連会長
2	橋 本 誠 剛	県子連副会長、荒尾市子連会長
3	原 英 夫	県子連副会長、八代市子連会長
4	桂 志 郎	県子連副会長、西原村子連会長
5	古 津 理 恵	県子連副会長、菊池市子連会長
6	山 本 多美男	県子連理事、宇土市子連会長
7	田 中 道 範	県子連理事、上天草市子連会長
8	塵 岡 裕	県子連理事、玉名市子連会長
9	稲 本 眞 理	県子連理事、氷川町子連会長
10	井手上 裕 一	県子連理事、菊陽町子連会長
11	井 立 伸 一	県子連専門委員、天草市子連総務

【事務局】

熊本県子連事務局長	横 手 宏 公
-----------	---------

大会役員

氏名	市町村（役職）	氏名	市町村（役職）
山本 多美男	宇土市理事	原 英 夫	八代市理事
鏡 純 子	県子連学識理事	稲本 眞 理	氷川町理事
橋本 誠 剛	荒尾市理事	笹山 欣 悟	人吉市理事
塵岡 裕	玉名市理事	松下 正 壽	多良木町理事
龍 あずさ	玉東町理事	藤山 裕 倫	湯前町理事
坂梨 泰 志	和水町理事	杉本 栄 喜	あさぎり町理事
平山 大 介	南関町理事	西村 雄 二	相良村理事
高松 孝 二	長洲町理事	松尾 博 之	天草市理事
丸山 康 昭	山鹿市理事	田中 聖 二	天草市理事
古津 理 恵	菊池市理事	田中 道 範	上天草市理事
清原 さおり	大津町理事	迫田 花 梨	苓北町理事
井手上 裕 一	菊陽町理事	濱口 洋 輔	リーダー会理事
松本 龍 一	合志市理事	鶴田 孝 三	監事
岩下 尚 文	阿蘇市理事	稲田 壽 昭	監事
宮崎 敦 司	小国町理事	後藤 忠 久	専門委員
笠野 眞 喜	南阿蘇村理事	井立 伸 一	専門委員
桂 志 郎	西原村理事	岡山 直 之	専門委員
川口 純 子	御船町理事	三角 幸 三	専門委員
青木 政 俊	嘉島町理事	宮崎 浩 吉	専門委員
酒井 博 範	益城町理事	葉山 剛	魅力アップ委員
岩井 直 樹	甲佐町理事		

運営スタッフ

氏名	市町村	氏名	市町村
山口 泰介	宇土市	坂口 奉弘	西原村
小山 利幸	荒尾市	園田 彩乃	西原村
富田 慎也	荒尾市	民門 敬裕	御船町
竹内 伸男	玉名市	宮田 凜香	嘉島町
仲山 桂二	玉名市	中村 友美	益城町
安田 健司	玉東町	岩井 直樹	甲佐町
倉掛 裕美	和水町	城戸 やす子	八代市
平嶋 一成	南関町	土岡 清	八代市
高松 孝二	長洲町	山村 博美	氷川町
大森 勳	山鹿市	植木 宝奈	人吉市
松永 知明	山鹿市	椎葉 楓月	多良木町
杉山 純一	菊池市	高田 菜々美	湯前町
稲田 壽昭	菊池市	那須 照正	あさぎり町
柴藤 久希	大津町	竹崎 俊也	相良村
山下 英代	菊陽町	島崎 太	天草市
竹森 真平	菊陽町	田口 郁郎	天草市
梁池 一作	合志市	糀本 佐戸之	上天草市
岩下 尚文	阿蘇市	吉田 翔馬	苓北町
高野 尚哉	小国町	松本 聡一郎	リーダー会
竹永 昂平	南阿蘇村		

部会協力者

氏名	市町村	氏名	市町村
高濱 真由美	西原村	田口 康也	天草市
山崎 智幸	西原村	井上 恵子	天草市
緒方 祥代	西原村	眞田 洋子	天草市
加世田 英恵	西原村	犬塚 和義	荒尾市
田中 聖二	天草市	中島 伸治	荒尾市
小林 三剛	天草市	片山 聖一	荒尾市
坂本 誠次	天草市	松本 龍一	合志市
前田 敬介	荒尾市		



お 礼

令和五年度第五十四回九州地区子ども会育成研究協議会が、九州各地より多くの参加者を得て、熊本で開催することができ、心より感謝申し上げます。

大会テーマを「今こそ広げよう 子ども会 会員の輪」へ熊本発信、新たなステージへと設定し、子ども会の現状を見つめ協議する中で解決のヒントを見つめる研修会を目指しました。

各分科会では、熱い意見交換・協議が行われ、時間を忘れるほどだったようです。

また、記念講演、アトラクション、情報交換会では、熊本ならではのプログラムに、参加者の学びやつながりを深めることができました。

熊本大会での学びを、地元に戻られてからの実践に期待したいと思います。

結びに、次年度、沖縄大会の盛会を祈念してお礼の言葉といたします。

令和五年十二月吉日

熊本県子ども会連合会

会長 丸山 康昭